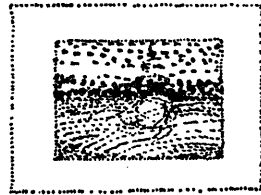


私のまわりの子どもたち



佐藤京子

公開保育を見て、懇談の中で一人の母親が信じられないという顔つきで保育者に語った。「家の子どもはまったく外に出したことがなく、家の中で兄弟とばかり遊ぶことが多かった。外で遊ぶことや、鉄棒、はんとろ棒で遊ぶという運動能力はまるっきりだめだと思っていました。今日の保育で竹馬がこん

なに上手にのれるとは思ってもみませんでした。」
とうれしそうに息をはずませて話をした。「お店は、夜が遅いので、朝が早く起きられなく、子どもに起こされてしまい、子どもにはすまないと思っています。」と重ねて話をされた。

別な母親からは、やはり店を夜おそくまでやって

いるのでどうしても子どもの生活リズムが夜型になってしまっていた。先生から朝あくびをしたり、覇気がないということをいわれて気になっていた。たしかに夕方になって来ると、子どもの目がかがやいてきていた様です。この様な生活を変えていかねばと父親とマラソンを始めて、今では時間になると、自分から起き出して、マラソンをやる様になって来ています。父親と車を使わないで、バスで通園する様にもしています。

「子どもから友だちが遊んでくれないとよくきかされていました。今日は子ども同志で仲よく遊んでいる様子がみられてうれし。家では大人が多いし、お客さん相手の仕事をしているので、大人のつき合いは上手であるが、子どもとは上手く遊ぶことが出来ないで心配でした。今日、園での様子をみて安心しました。」といろいろと話が出された。

子ども達の家庭環境は自営業が多い。その大部分は飲食関係をしめる。母親も従業員の一員として、

人手の数に入れられ、働き手の中心をなしている。又は母親が店を経営するといったことも多い。従って深夜まで店をあけている事が多く、家の中では、母親は忙しいを通りこしている状態で、子どもの相手をする、育児をすることは他人まかせにしている、店には子どもが出来るだけ顔をださない様にさせ、子どもの好きな様にすごさせている。その代償として、「物を与える」ということで、子どもに愛情をしめしている。常に現金が入って来るので、子ども達は次から次と新しい玩具を買ってもらい、子どもたちもお金を使いなれているし、物を買いたいっている。通園カバンにキーホルダーをいっぱいぶらさげて、みせびらかす、休みには毎回、都内で、てがるにいける遊園地に何回もつれていってもらい、手みじかに遊ばせてもらう傾向を身につけていて、子ども達は満足させられている。どうしても大人中心に、子どもの生活があるので、子どもに合った生活のリズムが出来ない。

個々の子どもについて園での過ごし方や、友だち関係について、例をあげて親の方に話し、夜は早くねかせてほしい、出来るだけ決められた時間に登園してほしい、夕食は時間を決めて親と一緒に食べてほしいと、お願いしても、「この様にすることは、

子どもに必要なことで大事なことはわかっています。だけど、今はとても出来ないのです、学校にいったらきちんとやりたい。私が入ってしまうと従業員にしがつかない。子どもの世話を他人にまかせるのは親としてやりきれない思いです。」という答が返ってくる。くり返し、くり返し話をしていくと、早く登園してくれるが、二・三日たつと子どもがなかなか起きてくれませんので、子どものせいにして、大人中心の生活を営んでいる。

子ども達の園での生活は、前日の疲れをそのまま園に持って来ている様な状態が見られる。うたをうたっているときでもアクビをする、保育母の話がきけない、鬼ごっこしても鬼になるとやめてしまつて組

織的な遊びに発展しない。保育母の意図することが頭に入らず深く考えずに単発的な答がすぐに返ってくる。形になるものは喜んでとりくむが、努力して形をつくるのはよわいといった状態である。

子ども達の性格は大たんでのびのびとしているが、時には自分の思う通りにならないとヒステリックになったり、友だちが遊んでくれないと泣き出したりし、子ども同志仲良く遊ぶということが出来ない子どももいる。

家での生活の影響が、保育園での子どもの生活に、この様な状態で現われるので、子どもの生活に何が大切かを公開保育を通して、親に考えてもらう様にとめる。

まず子ども達には子ども同志の結びつきや遊ぶたのしさを知らせていこうと、手をつかうことからはじめ、体を動かして遊ぶということを全面的に保育の中にとり入れていった。子ども達は毎日毎日少しずつではあったが、根気よくはんと棒や鉄棒にと

りくみ、一つずつ遊びの形がととのっていくと、行動に自信がついて来て、子どもの方から、朝夕の登降園のとき、親にはんとう棒がのぼれる様になったからみてと見てもらい、親の方でもがんばってねと見守っていける余裕が出来、すこしずつではあるが、園での子どもの様子に関心をみい出した。相変わらず、テレビを夜遅くまでみたり、親がねるまで起きている子も多いが、子ども同志の会話からは、

「学校は朝早いから夜早くねなくてはいけないんだよ」と夜遅くまで起きている子にさす様な話が出る様になり、「だってお母さんがそういってよ」と入学を前に親の方でもにわかでも、少しずつ生活をととのえようとする気配が見えて来ただけでもうれしい。

今回の公開保育を通し、子どもの園での生活をふりかえってみて、子どもの生活の変化、子どもの成長発達していく過程から、「子どもからはいろいろ

と教わりました。子どもを大人のベースで育てて、よくここまで育てて来たと思います。親の方が育っていない様で恥かしいと思います。子どもの生活に何が大切かがわかって来ただけでもうれしく思います。これからは子どもの生活を大切にしていきたい」とこの様な感想が参加した親の方から出て来た。

子どもの成長発達をうながすものとして、親と子の愛情で結ばれる信頼関係も大切な一つとしてうかがわれる。保育園のはたす役割の一つとしてこの親と子の信頼関係を豊かにするための土壌づくりをしていかねばならないと感じている今日この頃である。

(港区・飯倉保育園)